

公益信託 今井記念海外協力基金 2005 年度助成事業一覧

(単位：万円)

事業名	実施団体名	事業実施国	助成額
1. 保健医療に関する診断、治療、指導および人材育成	(特活)地球ボランティア協会	フィリピン	40
2. 2 年以上健全運営の実績があるにもかかわらず公立校として認められない小学校の運営事業	ランタン基金の会	ネパール	120
3. 識字教育(主体的住民参加型によるベンガル語の学習)	日本・ Bangladesh 文化交流会	Bangladesh	75
4. フィリピン都市部に暮らす貧困家庭の子どものための奨学生事業	(特活) ACTION	フィリピン	85
5. 産科婦人科病棟の設備整備 / 巡回健診と保健衛生指導の充実に必要なバイクと自転車の配備事業	(特活) Bangladesh シュと手をつなぐ会	Bangladesh	90
6. インド共和国内のチベット難民居住地域であるダラムサラにおけるアイキャンプ(眼科診察及び施術)の実施と医療技術指導	(特活) アジア眼科医療協力会	インド	40
7. 母子保健衛生のためのクリニック建設支援と女性センターの設備充実	(特活) ラブグリーンジャパン	ネパール	90
8. タイ国東北部メコン川流域のコンケン県ノンパイにおける有機農業指導者の育成事業(3 年度)	(特活) 環境修復保全機構	タイ	50
9. 簡易水道建設と研修による先住民族の生活改善事業	(特活) ビラーンの医療と自立を支える会	フィリピン	50
10. Bangladesh 寺子屋学校校舎建設及び付随事業	アジアキリスト教教育基金	Bangladesh	70
11. 教育を通じたネパールの女性の生活向上と自立(2 年度)	(特活) 地球の木	ネパール	40
助成件数：11 件			750 万円

2005 年度助成事業 概要・成果

1.「保健医療に関する診断、治療、指導および人材育成」

【実施団体】

特定非営利活動法人 地球ボランティア協会（所在地：兵庫県芦屋市）

【対象地域】

フィリピン モンテンプルバ市

【背景】

対象地域には約 2 万人が居住しているが、その多くは貧困状態にある。また保健医療体制が整っておらず、子どもの栄養失調や寄生虫が深刻な問題である。当会では過去 6 年間にわたってモンテンプルバ市で保健医療活動を行っており、地域住民約 300 名を保健員として育成してきた実績がある。

【目的】

対象地域の保健医療体制を整え、住民の衛生意識を高める。そのために、50 名の新規認定保健員を育成し、現保健員約 300 名とともに地域の保健医療体制を発展・充実させること、地域の子どもの栄養状態が改善され、家庭での保健体制が充実することを目指す。

【事業内容と成果】

現地カウンターパートの Family Cooperation Health Service Foundation (FAMCOHSEF) と当会のフィリピン人スタッフの主導により、下記事業を実施した。

対象地域の母親 46 名の保健員を養成（約 350 名の保健医療稼働体制が整う）

地域における保健員とバランガイ（村落行政区）保健所との連携を推進

自然の受胎調節法の指導、価値教育プログラムを実施

0～6 歳の栄養失調児に対する補助給食（週 5 回、4 ヶ月間）を実施（48 名の栄養失調児のうち、36 名が標準体重へと改善）

母親向けに栄養・調理などに関する講習会を実施（50 名の母親が栄養バランスのある献立・調理法を習得）

50 名の母親が子どもの咳、風邪、皮膚疾患等への早い段階での対処知識を習得

月 2 回の歯科・医科検診により、病気の予防と簡単な治療を実施

2. 「2年以上健全運営の実績があるにもかかわらず公立校として認められない小学校の運営事業」

【実施団体】

ランタン基金の会（所在地：北海道北見市）

【対象地域】

ネパール バグマテ県 ヌワコット郡北部

【背景】

当会では、ヌワコット郡及びラスワ郡に平成3年から14年間で学校や孤児寮などの施設を31棟122室建設・運営し、地域の就学率を30%から70%に上げた実績がある。しかし当会が支援しているヌワコット郡北部の6小学校のうち3校（サヌボレ小学校、ガイリカルカ小学校、デクレ小学校）は、政府の財政難のため公立校として認められず、当会の支援がなくなれば即閉校となる危機にある。

【目的】

サヌボレ小学校、ガイリカルカ小学校、デクレ小学校の3校に運営支援を行うことで、閉校の危機を回避し、授業を継続させる。

【事業内容と成果】

閉鎖される危機にあった上記3校において、先生の給与を支払うことが出来るようになり、閉鎖を免れた。また、就学を止めざるをえなかった子どもに再び就学の機会が訪れた。

3. 「識字教育(主体的住民参加型によるベンガル語の学習)」

【実施団体】

日本・Bangladesh文化交流会(所在地:東京都東村山市)

【対象地域】

Bangladesh ジェソール地方 シャシャ郡

【背景】

Bangladesh全体の成人識字率は男性 63%、女性 48% (1995~1999年)だが、対象地域の識字率は平均で約 43%と一段と低い。それは、貧困のために教育を受けられなかったためである。当会では、対象地域において栄養・保健衛生の改善、経済的自立のためのセミナーを行ってきたが、非識字者と識字者では理解度や自立への意識に大きな差があること、読み書きが出来るようになりたいと希望している住民が多いことなどから、本事業を立案した。

【目的】

母国語を学習する機会がなかった人々が、貧富の差、性別、年齢、職業、宗教などに関係なく、主体的参加により学べる機会をつくることで、自信を取り戻すと共に、視野を拡大し、積極的な社会参加の促進、向学心の向上、生活向上、自立の意識や生きる力の創出を図る。

【事業内容と成果】

現地のNGO ロサウクの協力を得て下記事業を実施した。

ベンガル語学習テキスト 610冊を作成(2005年4月~6月)・配布(7月下旬)

15名の識字教室の先生と2名の指導員を採用(6月)

識字教室の先生に対する指導技術トレーニングを実施(7月中旬)

15地区 15クラスに学校運営委員会を設置(7月)

ベンガル語教室への参加者を15地区から600名募集(7月下旬)

識字教育に対する動機付けワークショップを11ヶ所で開催(計890名参加)
(8月~2月)

ベンガル語教室を実施(40名×15地区、毎日2時間×週6日)(8月~3月)

先生と指導員による月例会議を実施(毎月)

4. 「フィリピン都市部に暮らす貧困家庭の子どものための奨学生事業」

【実施団体】

特定非営利活動法人 ACTION（東京都武蔵野市）

【対象地域】

フィリピン サンバレス州 オロンガボ市・近郊地域

【背景】

オロンガボ市では、1991年のピナツボ火山噴火により家や仕事を失った人々や、元米軍基地が再開発されたことにより仕事を求めて集まってきた人々が、衛生状態や治安の悪い不法占拠区での生活を余儀なくされている。このような状況から、家計を支えるために働かなくてはならない子どもたちや、学校に通うための学費がないために路上で1日の大半を過ごしている子どもたちが多くいる。

【目的】

家計を支えるために働き、学校に通うことが出来ない子どもたちに対する教育支援を行う。また、その子どもたちの母親を組織化しトレーニングを行うことで、母親組織が子どもたちの問題を把握し、解決する能力を身に付けられるようにする。

【事業内容と成果】

当会の日本人駐在員が現地カウンターパートである TATAG (Tayo Ang Tining At Gabay, Inc.) と協力しながらオロンガボ市とその近郊にある 12 地域において以下の事業を実施した。

オロンガボ市のストリート・チルドレンとコミュニティの状況を把握

589名の入学・在学費用、学用品（ノート、ボールペン、レポート用紙、クレヨン）、制服を支援（内、551名が2005年度の学習を終了）

奨学生の母親組織メンバーによる学校と地域内におけるモニタリングと月例ミーティングを実施

飛び級試験の受験費や出生証明書の登録費を補助

ワークキャンプの実施（日本人参加者のホームステイなど現地の人々との交流、および日本で不要になった古着や靴、カバン、文房具等の寄付を募り、現地へ運搬・配布）

5. 「産科婦人科病棟の設備整備 / 巡回健診と保健衛生指導の充実に必要なバイクと自転車の配備事業」

【実施団体】

特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会（所在地：福岡県福岡市）

【対象地域】

バングラデシュ メヘルプール県 カラムディ村

【背景】

対象地域の人口は約 5 万人であるが、85%の家庭は貧しい土地無し農民である。当会は 1995 年に、対象地域では唯一の医療機関である母子保健センターを建設し、一般診療、妊産婦検診、乳幼児検診、保健衛生指導、サテライト・クリニックにおける巡回診療などを実施し、24 時間体制で村人の生活を健康面から支えてきた。しかし、年々増え続ける患者数に対応できる分娩施設が限られているため、産婦人科病棟の建設を決定したが、その設備を整える見通しが立っていない。また、10 箇所のサテライト・クリニックでは巡回診療を行っているが、交通手段が整っていないため能率的な検診ができない。

【目的】

対象地域の住民が安全にお産できるよう産婦人科病棟に必要な設備を整え、サテライト・クリニックでの診療や指導を能率的に行うために、巡回の交通手段として、バイク 1 台と自転車 2 台を配備する。

【事業内容と成果】

現地 NGO の Shandhani Shangstha の主導により下記事業を実施した。

今井記念海外協力基金からの助成金より、保育器 1 台、光線療法機器、児心電計と酸素シリンダー 2 台を配備

国際ボランティア貯金寄付金配分資金より、産婦人科病棟を建設、自己資金より、その他の産婦人科病棟設備機器、および自転車 2 台とモーターバイク 1 台を購入

6. 「インド共和国内のチベット難民居住地域であるダラムサラにおけるアイキャンプ(眼科診察及び
施術)の実施と医療技術指導」

【実施団体】

特定非営利活動法人 アジア眼科医療協力会(所在地:兵庫県西宮市)

【対象地域】

インド ヒマチャル・プラディッシュ州 カングラ地区

【背景】

チベット亡命政府が置かれているダラムサラには、チベット難民1万人以上が居住している。政府が直轄するデレク病院には眼科医がいないため、日本人医師を派遣して白内障患者の診察を行うとともに、現地の眼科医療関係者に技術移転を行う必要がある。なお当会ではこれまで既にネパール、中国、ミャンマーで合計200名以上、ダラムサラでは2名の現地眼科医に対して技術移転を行った実績がある。

【目的】

白内障手術を要する患者のスクリーニングと施術およびインド人眼科医への技術指導を行う。

【事業内容と成果】

日本人医師を派遣して12月末に1週間アイキャンプを実施し、下記事業を行った。

患者46名に白内障手術を実施、視力を回復すると共に介助不要の生活が実現

現地インド人眼科医2名に新しい医療技術を移転、その技術の向上を支援

チベットの伝統的医学を継承するチベット医科大学の教授および数名のチベット人医
学生に白内障手術を紹介

日本人が参加するアイキャンプ活動を通してインド人社会とチベット難民コミュニ
ティ間の交流が促進

7. 「母子保健衛生のためのクリニック建設支援と女性センターの設備充実」

【実施団体】

特定非営利活動法人 ラブ グリーン ジャパン（所在地：神奈川県鎌倉市）

【対象地域】

ネパール パンチカール村

【背景】

対象地域には母子保健衛生のための施設が無いため、初期医療を行う施設を設置する必要がある。また、当団体は女性の自立促進のために 2004 年に女性自立支援センターを完成させたが、貧困のため施設内設備への資金調達が難しい状況にある。

【目的】

女性自立支援センターの施設備品を充実させ、定期的に集会を実施し、女性たちの自立を目指す。

母子保健衛生のためにクリニックとトイレを建設することによって、定期的な診察ができる環境を整える。

【事業内容と成果】

現地カウンターパートのラブ・グリーン・ネパール(LGN)の主導により下記事業を実施した。

女性自立支援センターの施設内設備を整備（机やいす、白板、掲示板、棚、文房具等の設置）

母子保健衛生に関するテキスト 500 部を購入・配布

クリニックおよび患者用のトイレを建設

クリニックの基本医療セットや施設内設備を整備（ベット、机、いす、棚等の設置）

8. 「タイ国東北部メコン川流域のコンケン県ノンパイにおける有機農業指導者の育成事業」(3年度)

【実施団体】

特定非営利活動法人 環境修復保全機構（所在地：東京都町田市）

【対象地域】

タイ コンケン県 ノンパイ

【背景】

117戸400名が居住している対象地域の住民の平均所得は約4万バーツ(約10万7千円:2005年1月のレートで換算) / 年であり、タイの平均所得約44万バーツ(約117万5千円) / 年を大きく下回っている。化学肥料を使用し換金作物を栽培している農家が多いが、近年の化学肥料価格の高騰は農家の生活を圧迫しており、営農を放棄して都市へ出稼ぎしなければ生活できない農家が増えている。

【目的】

当団体では、2003年度より当基金の助成を受け、対象地域で有機農業指導者育成研修を実施している。2005年度は、2003・2004年度に当団体の有機農業指導者育成研修を受けた農家が主体となって、セミナーの実施やパンフレットの配布を行うことにより、有機農業を周辺農村や小・中学校に研修の成果を広げていくことを目的とする。

【事業内容と成果】

有機農業指導者育成研修を受けた農家が主体的になり、小中学校生徒と近隣農村の農家を対象として、下記事業を実施した。

有機農業指導者育成研修に参加した農家による啓発活動:8月と12月に小学校においてセミナーを開催(堆肥づくりや粒状化堆肥づくりを指導)

研修に参加した農家が作成した有機農業ガイドノートを編集、400部の冊子印刷、近隣農村の農家や小中学校に配布

9. 「簡易水道建設と研修による先住民族の生活改善事業」

【実施団体】

特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会（所在地：神奈川県横浜市）

【対象地域】

フィリピン ミンダナオ島 3地区

【背景】

ミンダナオ島の辺境にある対象3地区（ラマハ、ラナス、シオブ）は、入植者の増加や伐業者進出により土地を追われたイスラム系先住民族が約1000名住んでいる。地方政府による妊婦・乳幼児検診はなく、水道もない。安全な水の不足と保健衛生・栄養の知識の不足により、重症の皮膚疾患や下痢など消化器疾患が蔓延しており、乳幼児死亡率は推定10%である。

【目的】

安全な水の使用を可能にし、特に乳幼児に多い伝染性皮膚疾患及び消化器系疾患の蔓延を防ぐ。

母親を対象に衛生・栄養短期研修を実施し罹患率及び乳幼児死亡率の減少に必要な知識と技能を普及する。

水を供給することにより、栄養改善のための家庭菜園を普及する。また、持続可能な傾斜地農法であるアグロフォレストリを促進する。

【事業内容と成果】

現地カウンターパートの Partners for First Peoples Foundation Inc. (PFP) が主体となり下記事業を実施した。

資材の購入・対象地域への輸送（7月末～8月初め）

水源地点4箇所（健康福祉課による水質検査済み）に防護枠（小型貯水タンク）の建設（8月上旬、大工・石工・作業員合計7名による20日間の作業）

水道管敷設用溝掘り工事（8月中旬～9月、住民による共同作業）

水道管理設工事（11月下旬～1月下旬、住民による共同作業）

ラマハ及びラナスに貯水タンクの建設（11月、大工2名、石工1名、従業員4名、住民による作業）

給水施設（蛇口、コンクリート製洗い場）の工事（ラナス4箇所、ラマハ5箇所、シオブ2箇所）

シオブの水道工事

ラマハ（2月14日、参加者42名）とラナス（2月15日、参加者29名）で栄養・衛生研修を実施

10. 「バングラデシュ寺小屋学校校舎建設及び付随事業」

【実施団体】

アジアキリスト教教育基金（所在地：東京都新宿区）

【対象地域】

バングラデシュ ジャマルプール県 ボクシガンジ地区

【背景】

北部山岳地帯の少数民族（マンディ族）が居住している対象地域では、行政による初等教育サービスはほとんどない。対象地域の初等教育純就学率は推定約 65%であり、全国平均の 89%をはるかに下回っている。地元の住民の強い要請を受け、当会は現地 NGO の Basic Development Partners (BDP) と協力し、5 年前より支援を開始した。現在、7 校、20 名の教師、975 名の生徒を支援している。

【目的】

BDP が運営している小学校の 1 つである、青空教室のコネカンダ村スクールにレンガ校舎を建設し、特に女子の就学率を高めることを主要目的とする。また村人が初等教育の重要性に目覚め、地域の力で寺小屋学校教育が維持され、発達するメカニズムを作ることも目指す。

【事業内容と成果】

BDP の主導により、下記事業を実施した。

対象地域周辺の民家の聞き取り調査（子どもの数、年齢、健康状態等）（2005 年 2～3 月）

校舎建設のための調査・親の代表や村の長老からなる教育委員会での話し合い（3 月）

2006 年度より幼児クラス（両親に教育の重要性を理解してもらう準備期間）に受け入れる子どもを選出（5～6 月）

対象地域のマンディ族の中から中等教育を終えた女性を発掘、教師としての基本的知識と技能の修得訓練を実施（4～10 月）

レンガ校舎を建設（9～12 月）：約 350 名の子どもたちが通学可能に

備品（5 人がけの長いすと機のセット）を購入・設置（11 月）

11. 「教育を通じたネパールの女性の生活向上と自立」(2年度)

【実施団体】

特定非営利活動法人 地球の木(所在地:神奈川県横浜市)

【対象地域】

ネパール カイラリ郡(極西部)/ラリトプル郡イマドール村(カトマンドゥ近郊)

【背景】

カイラリ郡には先住民族タルー族が多く住んでおり、女性の識字率は約15%である。マオイストの影響が強い地域であり、現在は当団体と現地カウンターパートの Society for Action and Research for Sustainable Development (SOARS)のみしか支援していない。一方、ラリトプル郡イマドール村周辺では、様々なカーストの人が住む地域で、劣悪な労働条件で働いている出稼ぎ労働者が多い。

【目的】

カイラリ郡: 貧しい女性たちに識字教育および職業訓練を行うことによって、自立を促し、生活の改善を図る。また、女性の地位を向上させる。

ラリトプル郡: 活動が低迷している NGO や市民グループ、青少年グループに対し、各種トレーニングを行うことにより、活動の担い手を育成する。

【事業内容と成果】

現地 NGO の SOARS の主導により下記事業を実施した。

カイラリ郡: (a) 識字教室(4クラス)・上級識字教室(4クラス)を開催: 女性194名、男性9名の計203名が参加

(b) 職業トレーニング(畜産の専門家による研修)を実施(3月3~5日): 女性14名、男性17名の計31名が参加

(c) 子育て教室を開催(4月4~5日): 女性30名が参加

(d) アドボカシー能力向上のためのパブリック・ミーティングを開催(月1回×7ヶ月): 380名が参加

(e) 青少年グループ育成事業

(f) ローカルスタッフの報酬

ラリトプル郡: (a) 女性起業家のためのトレーニングを実施(12月15~18日): 女性グループ10団体から計25名が参加

(b) 女性 NGO リーダー育成トレーニングを3回実施(11月17~20日、1月15~19日、3月19~22日): 各回25名、計75名が参加

(c) 青少年グループ育成事業: 環境運動、啓発活動、学校に行けない子ども達に対する支援活動、コンテスト等を実施

(d) チュニケル小学校の教師を支援